

農産物流通の今後の展望

平成19年7月

農林水産省総合食料局流通課

課長補佐 道菅稔

21世紀新農政2007のポイント

農林水産業の潜在能力を最大限発揮させ、21世紀の戦略産業に。国民が求めるおいしく安全な食料の安定供給を実現

I 食と農に関する新たな国家戦略の確立

世界最大の食料純輸入国である我が国の食料戦略を確立→不透明感を増す世界の食料事情の中で、食料の安定供給を確保

○ 国際的な食料事情の変化に対応した新たな食料戦略の確立

- ・ 国際食料情報の一元的な収集・分析体制の整備、国民食料会議(仮称)の議論を通じ食料問題に関する認識を国民全体で共有

○ 我が国農林水産物・食品の市場の拡大

- ・ 輸出環境の整備、日本食・食材の海外情報発信等により、農業の潜在能力を発揮し、平成25年までに輸出額を1兆円規模に拡大

○ WTO農業交渉、EPA交渉への戦略的取組

II 国内農業の体質強化

農地の「利用」を担い手にまとめて再配分する仕組みの構築など農地政策を抜本改革→担い手が創意工夫を活かせる魅力ある農業経営の確立

○ 担い手への施策の集中化・重点化

- ・ 新たな経営安定対策の推進により、創意工夫を生かせる農業経営を実現

○ 農地政策改革

- ・ 地域の面的集積を促進する機能を持つ組織が、担い手に農地の「利用」をまとめて再配分する新たな仕組みを構築

○ 食料供給コストの縮減

- ・ 農協系統の経済事業改革の徹底等により生産資材価格を低減

○ イノベーション・知的財産の力による農業の潜在的な力の発揮

- ・ ITを活用した新たな農業生産技術など革新的な技術開発を推進し、生産性・品質の向上等を加速

III 国民の視点に立った食料政策の展開

生産から食卓までの確な工程管理を実施→食品の安全と消費者の信頼を確保

○ 食品の安全と消費者の信頼の確保に向けた取組の充実

- ・ GAP(農業生産工程管理手法)等の導入により、生産から食卓までの確な工程管理を実施
- ・ 食品産業全体でのコンプライアンスの徹底

○ 農林漁業体験活動を通じた食や農への理解の増進

- ・ 「教育ファーム」等を通じ、実体験を生かした食育の推進

IV 資源・環境対策の推進

バイオマスなど再生可能な資源を生産・活用する農林水産業の新たな展開を支援→循環型社会の実現・地球環境の保全

○ バイオマスの利活用の加速化

- ・ 平成23年までに国産バイオ燃料を5万kl生産。大幅生産拡大に向け技術開発を推進(技術開発により、2030年頃には600万klの生産が可能(農水省試算))
- ・ 家畜排せつ物等の地域のバイオマスの総合的な利活用の推進

○ 食品リサイクルの推進

- ・ 食品産業と農業が連携して食品の循環利用の環(リサイクル・ループ)を構築

○ 地球環境保全に対する農林水産業の積極的な貢献

- ・ 農林水産分野における地球温暖化対策に関する戦略、国土の生物多様性の保全に関する戦略を策定

V 農山漁村の活性化

地域の創意工夫による取組を後押し→「美しい国」の原点である農山漁村の活力を引き出し、底上げにつなげる

○ 農山漁村活性化に向けた地域の創意工夫の後押し

- ・ 各府省連携の下、居住者・滞在者の受入体制の強化等により、団塊世代や若者の活力を最大限活用

○ 暮らしを守る鳥獣害対策の展開

- ・ 鳥獣の個体数管理・防除と生息環境整備を総合的に推進

農産物流通への期待①

キーワード①

「農林水産業の潜在能力を最大限発揮」、「国内農業の体質強化」

例えば..

- ・ 消費者ニーズを生産者に伝え、「消費者に選択される担い手」を育てる。
- ・ 生産物の持っている価値をしっかりと消費者に伝達する。
- ・ 流通コストを縮減する。

農産物流通への期待②

キーワード②

「食品の安全と消費者の信頼の確保」、「食や農への理解の増進」

例えば..

- ・ 生産段階はもちろん、最終的に消費者に届くまでの間のリスクを減らす。
- ・ トレーサビリティシステムを導入する。
- ・ 生産者と消費者の顔の見える関係を構築する。

農産物流通への期待③

キーワード③

「循環型社会の実現・地球環境の保全」

例えば..

- ・ 少しでも効率的な物流を実現する、環境への負荷の少ない資材を使用する。
- ・ 食品廃棄物のリサイクルに取り組む。
- ・ 環境への負荷の少ない生産物が消費者に選択される環境をつくる。

SEICAへの期待

